

<h1>地域福祉論(2033)</h1>	<h2>柘植 将介</h2>	併修科目・必修
		3年
		PT・OT月曜3限

授業のねらい	地域福祉の基本的な考え方について学ぶ。 地域の社会資源の理解と活用方法を理解する。 地域福祉に関わる組織や機関について理解する。
--------	--

教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。
--------	---

設 題	レポート 1	地域における福祉以外の分野との機関協働のあり方について、実際に行われている先駆的な取り組みを1つ事例として取り上げ、その取り組みが地方創生や地域福祉の推進に及ぼしている影響について考察しなさい。	清書	5月22(月)提出
	(ポイント)	「地域福祉ガバナンス」の考え方や、「社会資源」のとりえ方について簡潔に触れた上で、「地域福祉以外の分野との機関協働」がなぜ重要なのかについてまとめること。その上で事例を1つ取り上げその事例の取組が地域に与える影響について、良い点と課題になっている点の両面から考察すること。		
	レポート 2	災害時に活用される法制度の概要と、被災者のニーズおよび平時からの支援体制のあり方について述べよ。	清書	6月19日(月)提出
	(ポイント)	「災害救助法」「災害対策基本法」等について、「災害時要配慮者支援」や「福祉避難所」を含めてまとめること。その上で、時間の経過とともに変化する被災者のニーズへの変化や、平時からの支援体制構築のための具体的な方法について、あなた自身の経験や考えも交えながらまとめること。		
	科目終了試験	学習のポイント・地域福祉の推進主体について 学習のポイント・市長村地域福祉計画の概要とPDSサイクルについて 学習のポイント・地方行政における地方公共団体の役割と社会福祉の実施体制について		科目終了試験7月24日(月)実施予定
期末試験・スクーリング修了試験	詳細は、後日発表			

1	オリエンテーション 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 1
2	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 2
3	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制
4	地域福祉ガバナンスと多機関協働 I
5	地域福祉ガバナンスと多機関協働 II
6	レポート作成
7	地域福祉の推進主体について (学修ポイント)
8	災害時における総合的かつ包括的な支援体制 I
9	災害時における総合的かつ包括的な支援体制 II
10	レポート作成
11	市町村地域福祉計画の概要とPDSサイクルについて (学修ポイント)
12	地方行政における地方公共団体の役割と社会福祉の実施体制について (学修ポイント)
13	地域福祉の考え方、歴史、動向
14	科目終了試験まとめ
15	科目終了試験
	期末テスト

成績評価	出席率	30点 80% 以上、出席すること。不足した場合は一般スクーリングへの参加となります。
	期末試験	50点 持ち込み:可、論述式
	授業内評価	20点 提出状況、授業態度を考慮して加算する。

備考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早めに提出をすることを心がけてください。 レポート・学習のポイントのメ切は厳守すること。期限を守れなかった者は、授業内評価を減点する。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることであれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。
----	---

2023年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	検査・測定法 I	授業形態	講義・ 演習 ・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	月曜・4限
担当教員	藤野頼貴 日比和宏				
授業概要	<p>作業療法の対象者を治療するためには明確な目標を立て治療プログラムを作成することが必要である。そのためには対象者の状態を把握するために検査や測定を行い、結果をまとめ適切な治療プログラムを考える必要がある。</p> <p>身体障害領域における様々な検査・測定の知識・技術を身につけ、正確かつ適切な時間内に評価を実施できるよう実技中心に行います。</p>				
学習目標	<p>模擬患者様に対し、正確かつ適切な時間内に関節可動域測定が実施できる</p> <p>模擬患者様に対し、正確かつ適切な時間内に徒手筋力検査が実施できる</p> <p>模擬患者様の姿勢や動作を観察し必要な検査部位を選択し実施することができる。</p>				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション、関節可動域測定(上肢)②(P62～P123)				藤野・日比
2回目	関節可動域測定(上肢)②(P62～P123)				藤野・日比
3回目	関節可動域測定(下肢)②(P154～P211)				藤野・日比
4回目	関節可動域測定(下肢)②(P154～P211)				藤野・日比
5回目	関節可動域測定(頸部・体幹)②(P14～P61)				藤野・日比
6回目	実技テスト1(20%)				藤野・日比
7回目	徒手筋力検査(上肢)③(P66～P157)				藤野・日比
8回目	徒手筋力検査(上肢)③(P66～P157)				藤野・日比
9回目	徒手筋力検査(下肢)③(P246～P337)				藤野・日比
10回目	徒手筋力検査(下肢)③(P246～P337)				藤野・日比
11回目	徒手筋力検査(肩甲帯・体幹)③(P36～P64、P356～P385)				藤野・日比
12回目	実技テスト2(20%)				藤野・日比
13回目	動作観察からの機能評価 1				藤野・日比
14回目	動作観察からの機能評価 2				藤野・日比
15回目	実技テスト3(60%)				藤野・日比
教科書及び参考書	<p>テキスト① 臨床技能とOSCE～コミュニケーションと介助・検査測定編 第二版</p> <p>テキスト② 実践リハ評価マニュアルシリーズ 臨床ROM-測定からエクササイズまで ヒューマン・プレス</p> <p>テキスト③ MMT メディカルビュー</p>				
成績評価	<p>実技テスト(100%) 欠席・遅刻は減点</p> <p>* 実技テストの日は4限→1, 2限に変更し実施します。</p>				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>実技授業が中心になりますので半袖半ズボンなど動きやすい服装で参加してください。評価実習に向けて主要な評価を正確かつ迅速に検査・測定できるよう授業時間だけでなく時間外にも練習し技術を定着させましょう。</p> <p>実際に作業療法士として働中で、評価に時間はかけられません。正確に短時間で必要な評価を実施できるようになるには反復練習が必須です。リスク管理しながら対象者の動作分析をし、評価できるようになるにはクラスメイトと練習するだけでなく教員にアポイントメントをとり模擬テストを受けるなどして高いレベルでの技術習得を図りましょう。</p> <p>実技テスト1は関節可動域測定を、実技テスト2は徒手筋力検査を実施していただきます。</p> <p>実技テスト3は模擬患者様の動作を観察し必要と思われる部位を選択し実施していただきます。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>整形外科中心の病院で急性期から維持期まであらゆる疾患、特に上肢の整形疾患、脳血管疾患を中心に治療した経験を持つ。現場での経験をもとに実践的な評価技術を提供する。</p>					

ソーシャルワーク演習Ⅲ(3241)	大兼健寛	併修科目・必修
		PT・OT3年
		火曜1限

授業のねらい	ソーシャルワーク演習Ⅲは、「ソーシャルワークの実践」という位置づけとなり、これまでのソーシャルワーク演習Ⅰおよびソーシャルワーク演習Ⅱにおいて学習した内容を踏まえ、それらの知識と実践技術を事例を通じてより実践的に活用し、総合的、また横断的な理解の促進を図る。
--------	---

教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。
--------	---

設 題	レポート 1	総合的・包括的な支援の意義と方法について述べよ。	下書	6月6日(火)授業内
	(ポイント)	個人、集団、地域を対象とした事例を踏まえて、多様な支援対象者への専門知識・技術の適応方法について整理する。	清書	
	レポート 2			
	(ポイント)			
	科目終了試験	学修のポイント・1 個人に対するソーシャルワーク実践について 学修のポイント・2 集団に対するソーシャルワーク実践について 学修のポイント・5 災害被災者への支援について		科目終了試験 7月21日(火) 実施予定
	期末試験 スクーリング修了試験	詳細は、後日発表		

1	オリエンテーション、総合的・包括的な支援の意義
2	総合的・包括的な支援の方法①
3	総合的・包括的な支援の方法②
4	総合的・包括的な支援の方法③
5	総合的・包括的な支援における知識・技術
6	清書レポート作成
7	学修のポイント・1 個人に対するソーシャルワーク実践について
8	1200字レポートレポート作成・締切
9	学修のポイント・2 集団に対するソーシャルワーク実践について
10	1200字レポートレポート作成・締切
11	学修のポイント・5 災害被災者への支援について
12	1200字レポートレポート作成・締切
13	「実践」とは何か
14	科目終了試験対策
15	「ソーシャルワーク演習Ⅲ(3240)」科目終了試験(持ち込み不可)
	期末試験

成績評価	出席率	30点 80% 以上、出席すること。欠席は-10点、遅刻は-3点。
	期末試験	50点 持ち込み:可、論述式
	授業内評価	20点 レポート・1200字のまとめの内容、提出状況、授業態度を考慮。

備考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出することを心がけてください。
	レポート・学習のポイントの〆切は厳守すること。期限を守れなかった者は、反省文を添付して提出すること。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることであれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。

2023年度前期 理学・作業名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅲ(発達障害Ⅰ)	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	火曜・2限
担当教員	杉野 潤也、伊藤 大貴				
授業概要	作業療法の4大領域として発達障害領域があります。この授業では、発達障害とはどのような障害かを理解し、発達障害領域の対象となる主な疾患・障害についての基本的な知識と障害の特性を学習します。また、発達領域の作業療法評価の視点および必要な検査について実践しながら学んでいきます。発達障害領域に関する理解を深め、多角的に捉えられる作業療法士を目指しましょう。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害とは何か説明できる。 ・発達障害領域の対象疾患・障害について説明できる。 ・対象疾患・障害の特性を知ったうえで、発達障害領域における作業療法の目的や役割を説明できる。 ・各検査の目的、概要を説明できる。 				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション、Introduction P1～6				杉野潤也
2回目	子どもの発達と作業療法1(姿勢・運動発達とその背景) P7～16				杉野潤也
3回目	子どもの発達と作業療法2(感覚統合機能の発達) P18～20				杉野潤也
4回目	子どもの発達と作業療法3(認知・思考機能の発達) P21～23				杉野潤也
5回目	子どもの発達と作業療法4(コミュニケーション機能の発達) P24～26				杉野潤也
6回目	子どもの発達と作業療法5(子どもの発達と遊び) P27～32				杉野潤也
7回目	子どもの発達と作業療法6(セルフケアの発達と遊び) P33～35				杉野潤也
8回目	子どもの発達と作業療法7(作業の見方-作業の発達と変容) P36～46				杉野潤也
9回目	振り返り(子どもの発達と作業療法1～7)		※単元テスト①		杉野潤也
10回目	評価1(総論、情報収集および面接、観察の視点) P47～56				伊藤大貴
11回目	評価2(発達像を把握するための検査①) P57～62				伊藤大貴
12回目	評価3(発達像を把握するための検査②) P57～62				伊藤大貴
13回目	評価4(発達像を把握するための検査③) P57～62				伊藤大貴
14回目	評価5(評価結果の分析と解釈) P63～68				伊藤大貴
15回目	振り返り(評価1～5)		※単元テスト②		伊藤大貴
教科書及び参考書	作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学 第3版				
成績評価	<p>単元テスト①・②:20点×2 期末テスト:60点 欠席は3点、遅刻は1点減点とします。</p> <p>単元テスト①は1回目～8回目、単元テスト②は10回目～14回目の授業内容から出題します。期末テストは全範囲ですが、単元テストと授業内でポイントとして伝えた部分を中心に出题する予定です。</p>				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>この講義は前期後期でそれぞれ実施します。前期に発達障害の概要や対象疾患、評価の流れ、発達検査について学習することは、後期に学ぶ障害に対するアプローチに繋がります。この授業を通し、発達障害領域の基礎を固めましょう。子どもの発達段階を学ぶことは、成長過程に合わせた評価を実施することに繋がります。2年次の人間発達学で学んだ内容を適宜復習し、理解を深めてください。テストに関しては、毎授業で予習復習を実施し、テスト前に慌てることなく準備しましょう。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>一般病院、介護老人保健施設、訪問リハビリテーションでの約11年間の臨床経験をもとに発達障害領域の作業療法について講義を行う。(杉野)</p> <p>約8年間、急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として関わってきた。小児から高齢者まで幅広い対象者に対し治療を行ってきた。(伊藤)</p>					

2023年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅱ(精神障害Ⅰ)	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	火曜・3,4限目
担当教員	中村 千紘				
授業概要	精神作業療法を提供する際には、治療の目的や治療構造を明確化することが大切です。また、治療者として対象者と接する際に必要なことについても学びます。 8回目からは、状態別、疾患別作業療法の目的と治療アプローチについて学びます。各疾患に沿った治療方法を実際の臨床実習にて発揮できるよう、担当症例を持った場合、自分ならどんな治療アプローチをするかを考えながら受講してください。				
学習目標	① 精神科作業療法の治療構造や転移・逆転移について説明できる。 ② 疾患別作業療法の回復段階に応じた作業療法目的について説明できる。 ③ 疾患別作業療法の一般的な治療方法について説明できる。				
回数					担当教員
1回目	精神科作業療法とは 評価から治療過程について(①p.90-92②p.94-95、112-113)				中村千紘
2回目	精神科患者への接し方 治療者—患者関係のとり方(①p.142-146③p.38-45)				中村千紘
3回目	精神科患者への接し方 転移・逆転移 治療者倫理(③p.46)				中村千紘
4回目	治療契約と構造の重要性(③p.42-46)				中村千紘
5回目	インフォームドコンセントについて(③p.46-51)				中村千紘
6回目	治療支援構造 作業活動や集団を用いた治療・支援構造(①p.147-149)				中村千紘
7回目	回復過程と作業療法(②P.119) ※小テスト①				中村千紘
8回目	状態別アプローチ(不安、無為、妄想、うつや躁)(①p.175-180)				中村千紘
9回目	状態別アプローチ(器質性精神障害)(①p.180-183)				中村千紘
10回目	疾患別作業療法 統合失調症(①p.192-201③p.144-169)				中村千紘
11回目	統合失調症の回復段階と作業療法目的(①p.192-201②P.116-127 ③P.144-169)				中村千紘
12回目	統合失調症の治療について(①p.192-201②P.116-127 ③P.144-169)				中村千紘
13回目	疾患別作業療法 気分(感情)障害(①p.201-212②p.133-137③p.170-184)				中村千紘
14回目	気分(感情)障害の回復段階と作業療法目的(①p.201-212②p.133-137③p.170-184)				中村千紘
15回目	気分(感情)障害の治療(①p.201-212②p.133-137③p.170-184) ※小テスト②				中村千紘
16回目	疾患別アプローチ 神経症性障害、ストレス関連障害(①p.212-224②p.157-163③p.185-194)				中村千紘
17回目	神経症性障害、ストレス関連障害の回復段階と作業療法目的(①p.212-224②p.157-163③p.185-194)				中村千紘
18回目	神経症性障害、ストレス関連障害の治療(①p.212-224②p.157-163③p.185-194)				中村千紘
19回目	疾患別アプローチ 摂食障害(①p.224-231②p.179-184③p.195-198)				中村千紘
20回目	摂食障害の回復段階と作業療法目的(①p.224-231②p.179-184③p.195-198)				中村千紘
21回目	摂食障害の治療(①p.224-231②p.179-184③p.195-198)				中村千紘
22回目	精神作用物質使用による精神・行動障害(①p.184-191②p.167-173③p.130-138)				中村千紘
23回目	精神作用物質による精神・行動障害の回復段階と作業療法目的(①p.184-191②p.167-173③p.130-138)				中村千紘
24回目	精神作用物質による精神・行動障害の治療(①p.184-191②p.167-173③p.130-138)				中村千紘
25回目	パーソナリティ障害(①p.231-238③p.202-208)				中村千紘
26回目	パーソナリティ障害の作業療法目的(①p.231-238③p.202-208)				中村千紘
27回目	パーソナリティ障害の治療(①p.231-238③p.202-208)				中村千紘
28回目	てんかん(①p.253-260③p.138-143)				中村千紘
29回目	てんかんの治療(①p.253-260③p.138-143)				中村千紘
30回目	まとめ				中村千紘
教科書及び参考書	① 作業療法学ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学/MEDICAL VIEW ② 精神科作業療法の理論と技術/MEDICAL VIEW ③ 精神医学テキスト(改定第4版)/南江堂				
成績評価	小テスト40%(20%×2回) 期末試験 60% 欠席3点、遅刻は1点減点とします。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
本講義では、各精神疾患に対する作業療法目的と治療アプローチとに分けて講義を実施します。 現代は、新型コロナウイルス感染症による感染不安やウクライナ侵襲による世界平和への不安、コロナによる経済的な困難さなどから精神疾患を有する人の対応だけではなく、一般の方にもメンタルケアが必要な時代です。学ぶ中で患者様のためだけではなく、自身のメンタルケアや身の周りの方をサポートするときに役立つ知識も得ていけると良いと思います。 今までに習った精神疾患の基礎知識については、復習が必要となると思います。また知識の確認や質問は、月曜日の放課後をオフィスアワーとしますので、確認に来てください。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
精神科病院において、病棟作業療法、訪問看護、デイナイトケアを担当する。その後、メンタルクリニックにてリワーク・デイケアの立ち上げを精神科作業療法士として実施した。その経験をいかし、精神科の基礎知識についての講義授業を担当する。					

2023年度前期 理学・作業名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅰ(身体障害Ⅱ)	授業形態	講義・(演習)・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	水曜・1,2限
担当教員	日比 和宏、伊藤 大貴				
授業概要	身体障害領域において作業療法分野で関わる疾患について、疾患特性と疾患ごとの作業療法評価、治療法について学習します。この授業では、座学主体ではなく、実技やグループワークなど演習主体の授業となります。知識だけでなく、臨床実習に必要な技術も十分に習得できるよう体を動かしながら学んでいきましょう。				
学習目標	1. 疾患の病態について説明することができる 2. 疾患に必要な作業療法評価を挙げ、評価結果をICFにまとめることができる 3. 治療計画の立案を行うことができる 4. グループワーク内で分担作業を行い、成果を発表することができる				
回数					担当教員
1回目	オリエンテーション 脳血管障害① 脳血管障害の病型・臨床症状と医学的治療 p.176-182				伊藤
2回目	脳血管障害② OT評価と目標設定 p.182-185				伊藤
3回目	脳血管障害③ 急性期の治療プログラム p.185-189				伊藤
4回目	脳血管障害④ 急性期の治療実践				日比・伊藤
5回目	脳血管障害⑤ 回復期の治療プログラム① p.189-194				伊藤
6回目	脳血管障害⑥ 回復期の治療実践①(機能的アプローチ編)				日比・伊藤
7回目	脳血管障害⑦ 回復期の治療プログラム②、生活期の治療プログラム p.194-201				伊藤
8回目	脳血管障害⑧ 回復期の治療実践②(基本動作編)				日比・伊藤
9回目	脳血管障害⑨ 回復期の治療実践③(ADL編)				日比・伊藤
10回目	高次脳機能障害① 配布資料 注意障害、記憶障害の評価と治療				伊藤
11回目	高次脳機能障害② 配布資料 半側空間無視、遂行機能障害の評価と治療				伊藤
12回目	頭部外傷 頭部外傷の病態、OT評価、治療プログラム P203-213				伊藤
13回目	パフォーマンステスト①				日比・伊藤
14回目	パフォーマンステスト②				日比・伊藤
15回目	関節リウマチ① 疾患の病態～変形の種類 作評p.349-352 身作p.239-245 病みえ①p.375-385				日比
16回目	関節リウマチ② 作業療法評価、治療 作評p.352-360 身作p.245-251				日比
17回目	関節リウマチ③ ADL、QOL、自助具、装具療法 作評p.361-369 身作p.251-254				日比
18回目	グループワーク(関節リウマチ)① 自助具 グループ分け・役割・作品の立案				日比
19回目	グループワーク(関節リウマチ)② 自助具制作、プレゼン資料作成				日比
20回目	グループワーク(関節リウマチ)③ 自助具制作、プレゼン資料作成				日比
21回目	グループワーク(関節リウマチ)④ 自助具制作、プレゼン資料作成				日比
22回目	プレゼンテーション				日比
23回目	全身性エリテマトーデス、多発性筋炎/皮膚筋炎 p.273-278				伊藤
24回目	悪性腫瘍 p.460-466				伊藤
25回目	ギランバレー症候群① p.358-364				伊藤
26回目	ギランバレー症候群② p.358-365				伊藤
27回目	多発性硬化症① p.365-371				伊藤
28回目	多発性硬化症② p.365-371				伊藤
29回目	重症筋無力症 p.373-377				日比
30回目	まとめ				日比・伊藤
教科書及び参考書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版/医学書院 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版/医学書院 病気がみえる②脳・神経/メディックメディア 病気がみえる①整形外科学/メディックメディア				
成績評価	パフォーマンステスト:20点 プレゼンテーション:20点 期末テスト:60点 欠席は3点、遅刻は1点減点とします。 パフォーマンステストは脳血管障害における治療技術(機能的アプローチ・基本動作・ADL)について説明、実践してもらいます。 プレゼンテーションはグループワークにて共同作成した自助具に対する発表をしてもらいます。 期末テストは全範囲ですが、授業内でポイントとして伝えた部分やパフォーマンステスト、プレゼンテーションの内容も出題する予定です。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
3年次では臨床実習評価があります。実際に患者様の身体を触って評価・治療するチャンスです。この授業では、身体障害分野の疾患について病態の確認や疾患ごとの評価、治療方法について学習を行い、治療技術を習得することができます。学生同士で評価・治療をしながら、実習に向けて技を磨いてほしいと思います。自己学習としては、教科書該当範囲の予習復習やグループワーク時の課題分などが推奨されます。わからない部分については、オフィスアワーを活用して質問にきてください。水曜授業後をオフィスアワーとしています。それ以外の時間の質問については、アポイントに合わせて時間をとって対応します。					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
整形外科中心の病院で急性期から維持期まであらゆる疾患、特に上肢の整形疾患、脳血管疾患を治療してきた。(日比) 急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。そのなかでも、高次脳機能障害に対する評価・治療に対し中心的に介入。学会発表も多数実施している。(伊藤) 対象者・家族のリアルなニーズとデマンドに対して、どのような治療を行ってきたのかエピソードトークも交えてお伝えします。					

権利擁護と成年後見(3191)		吉安功一		併修科目・必修
				3年
				PT・OT 水曜3限
授業のねらい	日常的に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身につけておくことは重要である。相談援助と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わり、成年後見制度(後見人等の役割を含む)、日常生活自立支援事業について学修する。そして、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。			
教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。			
設 題	レポート 1	ソーシャルワーカーとして成年後見活動を行う上での留意点について権利擁護の視点から具体的に述べよ。	下書	授業中指示する
	(ポイント)	社会福祉士、精神保健福祉士が成年後見活動を行う上で、「身上監護」を中核に位置づけていくことが課題となる。権利擁護の具現化としての成年後見制度の位置づけと、ソーシャルワーカーとして後見活動を考察すること。	清書	
	科目終了試験	学修のポイント1 法定後見制度について 学修のポイント4 成年後見制度の最近の動向と課題について 学修のポイント6 権利擁護にかかわる組織・団体について	科目終了試験 実施予定日は授業中に指示する	
	期末試験 スクーリング修了試験	詳細は、後日発表		
1	オリエンテーション			
2	レポート対策(相談援助の活動と法)			
3	レポート対策(成年後見制度:成年後見、保佐・補助の概要、申立て)			
4	レポート対策(成年後見制度:成年後見制度の義務と責任、動向について)			
5	レポート対策(成年後見制度:SWと権利擁護、日常生活自立支援事業について)			
6	レポート対策(レポート清書作成)			
7	学修のポイント1対策(法定後見制度について)			
8	学修のポイント1対策(法定後見制度について)			
9	学修のポイント4対策(成年後見制度の最近の動向と課題について)			
10	学修のポイント4対策(成年後見制度の最近の動向と課題について)			
11	学修のポイント6対策(権利擁護にかかわる組織・団体について)			
12	学修のポイント6対策(権利擁護にかかわる組織・団体について)			
13	科目終了試験対策①			
14	科目終了試験対策②			
15	科目終了試験			
	期末試験			
成績 評価	出席率	30点 80% 以上、出席すること。不足した場合は一般スクーリングへの参加となります。		
	期末試験	50点 持ち込み:可、論述式		
	授業内評価	20点 レポート・1200字のまとめの内容、提出状況、授業態度を考慮して加算する。		
備 考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出をすることを心がけてください。			
	レポート・学習のポイントの [※] 切は厳守すること。期限を守れなかった者は、反省文を添付して提出すること。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることであれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。			

社会福祉運営管理論(2502)	吉安 功一	併修科目・必修
		3年
		PT・OT水曜4限

授業のねらい
 今日、地域社会においては福祉サービスに対する様々なニーズが存在し、また新たなニーズも生まれている。こうした多種多様なニーズに対しては現場職員の個人的スキル任せでは到底対応できるはずがなく、同じ理念を持つ人々が結集して組織を作り、そこにヒト、モノ、カネ、情報などの経営資源を結集し、調整し、配分し、多くのニーズに応じていくこと、すなわち経営管理というものが要求されてくる。したがって今日では、地域社会の福祉サービスの実践にとっては福祉サービスを提供する組織とそこにおける経営管理の在り方について理解し、福祉サービスの経営管理を「利用者を取り巻く環境とのかかわりあいを通しての間接的な社会福祉援助技術の実践」という位置づけで理解・学修していく。

教科書・資料 大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。

設 題	レポート 1	福祉サービスにおける組織と経営について述べよ	下書	授業中指示する
	(ポイント)	福祉サービスとは何か、組織とは何か、経営とは何かの概念整理をすること。民間企業も含めたさまざまな主体の参入と規制緩和が進むこととなったが、新たな時代における福祉サービスの組織とその新たな視点からの必要性を考察する。	清書	
	科目終了試験	学修のポイント① 福祉サービスに関わる組織と団体について	科目終了試験 実施予定日は授業中に指示する	
		学修のポイント② 福祉サービスの組織と経営の基礎理論について		
		学修のポイント③ 福祉分野におけるサービスマネジメントについて		
		学修のポイント④ 福祉サービスにおける苦情対応とリスクマネジメントについて		
	学修のポイント⑤ 福祉サービスにおける人材の評価について			
	学修のポイント⑥ 福祉サービスにおける人材の育成について			
	期末試験 スクーリング後試験	詳細は、後日発表		

1	オリエンテーション ・ 福祉サービスにおける組織と経営 (はじめに)
2	レポート対策 福祉サービスにおける組織と経営①
3	レポート対策 福祉サービスにおける組織と経営②
4	レポート対策 福祉サービスにおける組織と経営③
5	レポート対策 レポートの文章校正 作成
6	レポート対策 レポート清書作成
7	学修のポイント③ 福祉分野におけるサービスマネジメントについて
8	学修のポイント③ 福祉分野におけるサービスマネジメントについて
9	学修のポイント④ 福祉サービスにおける苦情対応とリスクマネジメントについて
10	学修のポイント④ 福祉サービスにおける苦情対応とリスクマネジメントについて
11	学修のポイント⑤ 福祉サービスにおける人材の評価について
12	学修のポイント⑤ 福祉サービスにおける人材の評価について
13	全講義内容の振り返り(期末試験対策を含む)
14	科目終了試験 対策
15	科目終了試験
	期末テスト

成績評価	出席率	30点 80% 以上、出席すること。不足した場合は一般スクーリングへの参加となります。
	期末試験	50点 持ち込み:可、論述式
	授業内評価	20点 提出状況、授業態度を考慮して加算する。

備考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出することを心がけてください。
	レポート・学習のポイントのメー切は厳守すること。期限を守れなかった者は、反省文を添付して提出すること。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることであれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。

2023年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	義肢装具学 I	授業形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	木曜・1・2限
担当教員	廣島 淳				
授業概要	義肢装具の変遷、近年の適応、名称、種類及び構造、機能評価法を学び、義肢を使用する切断患者のリハビリテーションや装具を使用するリハビリテーションの実際について学習する。				
学習目標	① 装具の種類、構造、機能、適応について説明できる。 ② 義肢の切断部位に対する種類、構造、機能、適応について説明できる。 ③ 各疾患の特徴、障害像を説明できる。 ④ 各疾患に対して使用する装具のデザインと目的、必要な評価、使用法を説明できる。				
回数					担当教員
1回目	義肢装具総論、リハビリテーションにおける義肢装具の役割 P.190～194				廣島 淳
2回目	義肢装具士、作業療法士、理学療法士及び医療従事者の関連 P65～79 P190～194				廣島 淳
3回目	義肢装具の支給体系、健康保険等のしくみについて P18				廣島 淳
4回目	体幹装具概論 体幹装具に関する基礎知識と症例に対する装具療法の展開について学習する。P194、P276～277、P348				廣島 淳
5回目	〃 仙腸装具、腰椎装具、胸椎装具、頸椎装具について学習する。 P194、P197、P272～287、P292				廣島 淳
6回目	上肢装具概論 指装具、MP装具について学習する。P192、P197～199、P209、P300～302、P320～331、P348～350				廣島 淳
7回目	〃 対立装具、手関節装具、把持装具について学習する。P192、P214、P300～302、P307～319、P332～341、P348～350、P357～P358				廣島 淳
8回目	〃 肘装具、肩装具について学習する。P192、P207～209、P213～214、P248～249、P257～259、P298、P300、P348～349				廣島 淳
9回目	下肢装具概論 足底装具について学習する。P193、P265～P271、P298～299、P346～348				廣島 淳
10回目	〃 短下肢装具、膝装具について学習する。P193、P210～214、P248～256、P302～304、P342～346、P357～358				廣島 淳
11回目	〃 長下肢装具、小児用装具について学習する。P193、P201～204、P209～213、P227～235、P252、P260～270、P357～358				廣島 淳
12回目	義手概論 義手の基礎知識について学習する。P65～68、P70～83、P357～358				廣島 淳
13回目	〃 義手の基本構造について学習する。P83～119				廣島 淳
14回目	義足概論 義足の基礎知識について学習する。P70～79、P120～188				廣島 淳
15回目	〃 義足の基本構造について学習する。P120～188、P357～358				廣島 淳
教科書及び参考書	義肢装具学（医学書院） 義肢装具のチェックポイント（医学書院）				
成績評価	筆記試験（80％） 小テスト（20％） で評価する。 ※小テストは単元毎に実施します。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
授業では、教材として実物の義肢・装具を使用し回覧しますので、よく観察し、また装着したりして、質感や装着の仕方、ベルトの位置などに注意して理解を深めて下さい。 また、睡魔に襲われた時には、教室の横に立って聞くなり、トイレに行って顔を洗うなり、自分自身で工夫してみてください。 義肢・装具に興味を持ち、疑問点は積極的に質問をして下さい。					
（実務経験のある教員による授業科目の場合）どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
医療機関等で義肢装具士として、現在も活躍中である非常勤講師が、体験談などを交え、義肢装具の概要を講義し、国家試験に必要な知識を学ぶ科目である。					

ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(3400)		大兼健寛		併修科目・必修	
				PT・OT3年	
				金曜1限	
授業のねらい	ソーシャルワークの支援対象となる人たちが抱えている問題の複雑化・多様化に対応するため、地域共生社会の実現に向け、ソーシャルワーカーには、さまざまな実践が求められる。本科目では、総合的かつ包括的な支援の概念からその展開までを把握してもらい、さらに援助関係の形成方法や留意点、ネットワークの形成、社会資源の活用・調整・開発、カンファレンスその他、ソーシャルワークに関連する技法(ネゴシエーション、コンフリクト・レゾリューション、プレゼンテーションなど)についての理解を、多職種との関連も含めて理解することを目的とする。				
教科書・資料	大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。				
設 題	レポート 1	ソーシャルワークにおける援助関係の形成方法や留意点について述べよ。	下書		
	(ポイント)	①援助関係の形成方法と留意点について説明する。 ②援助関係形成におけるコミュニケーションとラポールの意義と方法について説明する。	清書	レポート締切 5月19日(金)授業内	
	レポート 2	社会資源の開発について述べよ。			
	(ポイント)	ジェネラリスト・ソーシャルにおける社会資源開発の捉え方について説明し、社会資源開発のさまざまな方法、社会資源開発に必要なソーシャルワーカーのスキルについて説明すること。	清書	レポート締切 6月30日(金)授業内	
	科目終了試験	学修のポイント・1 総合的かつ包括的な支援の考え方について 学修のポイント・4 ソーシャルワーク実践と社会資源の関係について 学修のポイント・6 ネゴシエーションについて		科目終了試験 7月21日(金) 実施予定	
期末試験・スクーリング修了試験	詳細は、後日発表				
1	総合的かつ包括的支援とは？				
2	ソーシャルワークにおける援助関係の形成①				
3	ソーシャルワークにおける援助関係の形成②				
4	清書レポート作成				
5	学習のポイント・1 総合的かつ包括的な支援の考え方について/1250字レポート作成				
6	社会資源のソーシャルワーク的語義と意義				
7	社会資源の開発について①				
8	社会資源の開発について②				
9	社会資源の関係について③				
10	清書レポート作成				
11	学習のポイント・2 ソーシャルワーク実践と社会資源の関係について/1250字レポート作成				
12	学習のポイント・6 ネゴシエーションについて				
13	1250字レポート作成				
14	科目終了試験対策				
15	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(3400)」科目終了試験(持ち込み不可)				
	期末試験				
成績評価	出席率	30点 80%以上、出席すること。欠席-10点、遅刻は-3点。			
	期末試験	50点 持ち込み:可、論述式			
	授業内評価	20点 レポート・1200字のまとめの内容、提出状況、授業態度を考慮。			
備考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出することを心がけてください。				
	レポート・学習のポイントの〆切は厳守すること。期限を守れなかった者は、反省文を添付して提出すること。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることになれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。				

2023年度前期 理学・作業名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅰ(身体障害Ⅰ)	授業形態	講義 演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	金曜・2限
担当教員	日比 和宏、伊藤 大貴				
授業概要	この授業では、身体機能作業療法の基本的な治療原理と治療方法を理解し、各疾患、障害に対する作業療法を考えるための土台作りをしていきます。エビデンスベースの治療が実践できるように知識・技術を学んでいきましょう。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボトムアップアプローチとトップダウンアプローチの評価・治療方法を説明することが出来る ・身体機能作業療法のプロセスを説明することが出来る ・身体機能作業療法の様々なアプローチ方法を説明することが出来る ・作業療法の治療場面でのリスク管理を説明することが出来る 				
回数					担当教員
1回目	身体機能作業療法学の基礎:1, 2目的と方法、対象 P4~P13				伊藤 大貴
2回目	身体機能作業療法学の基礎:3枠組み P14~P33				伊藤 大貴
3回目	身体機能作業療法学の基礎:3枠組み リスク管理 P33~P44				伊藤 大貴
4回目	身体機能作業療法学の基礎:4実践 P45~P56				伊藤 大貴
5回目	治療原理1 対象者とセラピストのためのボディメカニクス P60~P69				伊藤 大貴
6回目	治療原理2 運動制御理論と運動学習 P70~P76				伊藤 大貴
7回目	関節可動域の維持・拡大 P76~P86		※単元テスト①		日比 和宏
8回目	筋力と筋持久力の維持・増強 P87~P98				日比 和宏
9回目	筋緊張異常とその治療 P99~P109				日比 和宏
10回目	不随意運動とその治療 P110~P114				日比 和宏
11回目	協調運動障害とその治療 P115~P123		※単元テスト②		日比 和宏
12回目	感覚・知覚再教育 P123~P130				日比 和宏
13回目	廃用症候群とその対応 P130~P136				日比 和宏
14回目	物理療法の基礎 P136~P148				日比 和宏
15回目	まとめ				日比・伊藤
教科書及び参考書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 医学書院				
成績評価	<p>単元テスト①・②:20点×2 期末テスト:60点 欠席は3点、遅刻は1点減点とします。</p> <p>単元テスト①は1回目~6回目、単元テスト②は7回目~10回目の授業内容から出題します。期末テストは全範囲ですが、単元テストと授業内でポイントとして伝えた部分を中心に出题する予定です。</p>				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>本講義では、身体機能障害における治療の枠組みや考え方に加え、具体的な実践方法を学びます。これらは、それぞれの疾患を患った対象者に、根拠に基づいた治療を考え実践する上で、必ず必要となるものです。将来、適切な治療が実践できるよう意識して学んでいきましょう。実技も交えながら行いますので実施しやすいように、半袖半ズボンなどの動きやすい服装で参加してください。</p> <p>講義で学んだ知識はその日に復習をおこない、単元テストや期末テストに備えてください。ROMや筋力増強訓練などの技術に関しては、放課後や空き時間を利用して反復練習し、後期の評価実習に備えていきましょう。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
<p>整形外科疾患から中枢疾患と様々な疾患の作業療法を急性期から維持期まで病院、施設、クリニック、訪問と多岐にわたる臨床現場で経験してきた。(日比)</p> <p>急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。そのなかでも、高次脳機能障害に対する評価・治療に対し中心的に介入。学会発表も多数実施している。(伊藤)</p> <p>経験談も交えつつ、基礎的な治療の必要性や対象者にあわせた応用的な治療の考え方、技術などを伝えていく。</p>					

2023年度前期 理学・作業 名古屋専門学校シラバス

科目名	作業治療学Ⅳ(老年期障害Ⅰ)	授業 形態	講義・演習・実習	学科・年次	OT・3年
				曜日・時限	金曜・3限
担当教員	藤野 頼貴				
授業概要	我が国は世界に類を見ない高齢化と少子化が進んでいます。医療はもとより、保健・福祉分野での作業療法士の需要増が見込まれます。高齢社会では、疾患や障害へのアプローチもさることながら、障害予防という点が重視されています。「よき生き方」が「よき死に方」へとつながる為、障害をもった高齢者ばかりでなく、健康高齢者にも焦点を当てる必要があります。前期では高齢者の特徴について理解を深めていきます。				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会について重要語句を用いながら説明できる ・高齢期の課題(4つの喪失、社会活動、家族関係の変化、終の問題)について説明できる ・高齢者と関りの深い社会制度(介護保険、医療介護総合確保法)について説明できる ・高齢期の作業療法の役割や留意点(障害受容、高齢期リハの2つの要素、高齢期OTの3つの目的)について説明できる ・老化による循環、呼吸、消化、排泄、神経、運動器系の変化を説明できる ・老年症候群(尿失禁、低栄養、接触・嚥下障害、転倒・骨折、廃用)について ・高齢期に多い疾患について説明できる ・認知症の定義、中核症状と周辺症状の関連性、4つの認知症の特徴的症状の違いがわかる。 				
回数					担当教員
1回目	超高齢社会 P8～16				藤野 頼貴
2回目	高齢期の課題 P17～28				藤野 頼貴
3回目	社会制度 P29～32				藤野 頼貴
4回目	高齢期の作業療法 P33～38				藤野 頼貴
5回目	高齢期の生理的・身体的特徴 P39～42				藤野 頼貴
6回目	高齢期の心理的特徴 P49～51				藤野 頼貴
7回目	老年症候群 (尿失禁、摂食嚥下障害と低栄養) P43～47 <u>単元テスト</u>				藤野 頼貴
8回目	老年症候群 (フレイル・ロコモ・サルコペニア・廃用症候群) P43～47				藤野 頼貴
9回目	老年症候群 (骨折・寝たきり・褥瘡) P43～47				藤野 頼貴
10回目	高齢期に多い疾患 (循環器・呼吸器) P51～62				藤野 頼貴
11回目	高齢期に多い疾患 (運動器・内分泌) P51～62				藤野 頼貴
12回目	高齢期に多い疾患 (精神疾患・その他) P51～62 <u>単元テスト</u>				藤野 頼貴
13回目	認知症 (総論・各論) P64～74				藤野 頼貴
14回目	認知症 (評価方法) P64～74				藤野 頼貴
15回目	認知症 (治療) P64～74				藤野 頼貴
教科書及び参考書	標準作業療法学 高齢期作業療法学 第3版/医学書院				
成績評価	単元テスト40%(2回) 期末試験60% 欠席や遅刻は減点扱いとします。授業態度についても成績評価に含めます。				
学生へのメッセージ(受講上の留意点)					
<p>講義外学習では予習・復習・テスト勉強を含めて15時間の勉強を行うことで、必要な知識の定着が出来ると考えています。</p> <p>テスト勉強や復習については各授業の重要な点について、キーワードを伝えたり授業時間中にアウトプットをする機会や、授業終了後に確認をする機会を設けますので、それらの内容を中心に学修を進めてください。予習としては該当ページを記載するので、教科書P2～5のGIO、SBO、習得チェックリストの問いに対して自分なりの考えや、質問等を考えておくことでより講義授業がスムーズに理解でき、深い理解に繋がると考えます。</p> <p>オフィスアワーは授業の前後時間や、水曜日の授業後時間を確保しますので、学習上の疑問点について相談や質問があれば活用してください。</p>					
(実務経験のある教員による授業科目の場合)どのような経験を持ち、どのような授業を行うか。					
認知症治療病棟・重度認知症デイケア・訪問看護からのリハビリテーション・デイサービスにて勤務し、認知症をはじめとする高齢者へのリハビリテーションに従事してきました。また地域などでも認知症カフェ等での講師を行ってきた為、医学的リハビリテーションのみならず、予防領域においても地域包括ケアシステムの一役を担えるように授業を展開します。					

カウンセリング演習(2321)	平石 太一	併修科目・必修
		3年
		PT・OT金曜4限

授業のねらい
 カウンセリングの理論は、医療、社会福祉、教育などの現場で幅広く活用・実践されている。そこで、カウンセリングとはどのようなものなのか、そしてカウンセリングに必要な技法や態度、心構えとはどのようなものなのか、基礎から学修していく。また、カウンセリングは比較的新しい学問領域であるため、いくつもの理論が存在しているが、その中でも基礎となる、精神分析、来談者中心療法、行動療法(認知行動療法)の三つを中心に学修していく。

教科書・資料 大学指定のテキストを使用するが、他に参考資料も配付する。テキスト所持の可否はその都度伝達する。

設 題	レポート 1	カウンセリングの歴史と課題について述べ、これからのカウンセラーに必要な資質とは何か述べよ。	清書	5月26日(金)
	(ポイント)	助言指導・職業指導から始まったカウンセリングの歴史を概観し、その課題に迫ること。また、カウンセリングはどうあるべきかを考え、それはどういった訓練から作られていくのかを考察すること。		
	レポート 2	現代人の生活とカウンセリングについて考え、カウンセリングがどうあるべきか述べよ。	清書	7月7日(金)
	(ポイント)	現代の社会状況を捉え、何故カウンセリングが必要なのか、カウンセリングがどのような形で、どういったことに役立っているのか考察すること。		
	科目終了試験	学習のポイント1・パーソナリティの成長論について 学習のポイント2・クライアント中心カウンセリングについて 学習のポイント3・精神分析的カウンセリングについて		科目終了試験7月21日(金) 実施予定
期末試験・スクーリング修了試験	詳細は、後日発表			

1	オリエンテーション
2	カウンセリングの歴史
3	パーソナリティの成長論 1
4	パーソナリティの成長論 2
5	交流分析
6	来談者中心療法 1
7	来談者中心療法 2
8	精神分析 1
9	精神分析 2
10	認知行動療法 1
11	認知行動療法 2
12	さまざまなクライアントへの対応 1
13	さまざまなクライアントへの対応 2
14	まとめ
15	科目終了試験
	期末テスト

成績評価	出席率	30点 80% 以上、出席すること。不足した場合は一般スクーリングへの参加となります。
	期末試験	50点 持ち込み:可、論述式
	授業内評価	20点 提出状況、授業態度を考慮して加算します。

備考	授業中にレポートを作成する時間を設けます。その時間を有効に使い、早く提出をすることを心がけてください。
	レポート・学習のポイントのメッチは厳守すること。期限を守れなかった者は、反省文を添付して提出すること。授業中の携帯電話の使用、飲食、居眠りは絶対厳禁です(欠席又は遅刻扱いにします)。勝手な私語、指定された座席からの移動も禁じます(くり返し注意しても改善されなければ、反省文・課題などの提出を求めます)。出席は、80%以上が求められます。80%を下回ることになれば、課題の提出及び一般スクーリングへ参加することになります。